

小さな活動から大きな変化へ

2組 ララ グラハム

アレサソンドラ ジオバナ

昔々のことです。日本人だった私の曾祖父

はある日、新しい機会を求めて日本を去りま

した。明治時代の日本の状況がそれほどよく

なかつたためです。曾祖父は大分かる船に乗

りました。約一か月の船旅の最終目的地はペ

ルーでした。

未知の国に到着した曾祖父にとって、友達

や家族もいない、全く異なる文化や異なる言

語の国での新しい生活は非常に困難なもので

でした。ペルーで生き残るために様々な仕事を

しましたが、うまくいかないこともありまし

た。それにもかかわらず、前に進みたいとい

う願望が常に彼の中にもありました。

曾祖父にとって、最もつらい経験のひとつ

は玉ねぎを育てるためにお金を投資したこと

でした。経験も知識もなかつたので、作物は

うまくできませんでした。農地もよくなかつ

たため、玉ねぎの苗は枯れてしまいました。

玉ねぎ畑をあきらめて、新しい仕事を探す必要がありました。彼はより多くの仕事の機会を求めてペルーの首都、リマへ向かいました。

そして、リマでの新しい生活が始まりました。当時、曾祖父はまだスペイン語をマスターしておらず、ほかの人たちとのコミュニケーションも困難だったため、身振りやサインに頼っていました。それでも、時間がたつにつれ、少しずつペルー人の知り合いが増えていきました。お互いにだんだん親しくなり、ペルー人たちはペルーの文化や言語、マナーについて教えてくれました。そして、曾祖父が仕事に就けるよう助けてくれました。また、その間、宿泊場所と食べ物も提供してくれました。彼らは共にかけがえのない時間や経験を共有しました。意図せず、お互いに異文化交流をしていたのです。

そのうち、曾祖父は美容院の助手として働き始めました。助手として技術を身につけた

後、自分の美容院を開くことにしました。そして、結婚し、家族ができました。曾祖父が家族に日本の素晴らしさを話して聞かせたおかげで、その娘である私の祖母も異文化に興味を持つようになりました。

文化交流はお互いの文化を知るだけでなく、すべての文化が美しいということを理解し、とりわけ、ほかの人たちとの考え方の違いを尊重することが大切だということを学んだのです。

その後、祖母は日本に住むことになりました。日本語が話せた祖母は日本に住む外国人を支援するための様々なイベントや教室を企画するようになりました。その頃、中南米から多くの日系人が日本へ働きに来ていました。日系人にとって、日本は自分たちとは異なる言葉、異なる文化を持つ「外国」であり、親しみのある先祖の母国でもありませんでした。しかし、彼らは日本人とコミュニケーションが取れず、日本の文化を理解することは困難でし

た。

祖母と友人たちが滋賀県で企画したものに、

ペルーの伝統舞踊であるマリネラの教室や料

理教室、コミュニティセンターでのミサやト

ークイベントなどがあります。このようなイ

ベントを通して、お互いに異文化交流が促進

され、言語や習慣が違ってても新しい文化を知

ることに障壁がないことを示しました。祖母

は小さなコミュニティ内で大きな動きを生み

出した人でした。

そして、遠くない将来、私も文化交流を促

進する活動を始めたいと思っています。その

ため、4月から龍谷大学国際学部で多文化共

生について学ぶことにしました。大学での勉

強や新しい出会いを通して視野を広げ、曾祖

父や祖母がしたように、新しい隣人を歓迎し、

共に暮らしていく社会を実現させたいです。

小さな活動がやがて社会の大きな変化になる

ことを願って。